

20074

経大腿動脈アプローチでの Angio-Seal®と Exo-Seal®の比較

【背景】

近年、経皮的カテーテル術後の大腿動脈穿刺部位の止血において、様々な血管閉鎖デバイスが開発および使用されている。血管閉鎖デバイスは、用手圧迫に比べ止血時間・歩行開始時間の短縮が可能であると報告されている。

【目的】

経大腿動脈アプローチでの Angio-Seal®と Exo-Seal®の有効性および安全性を評価した。

【方法】

Angio-Seal 群(A 群)と Exo-Seal 群(E 群)について有効性(止血時間・歩行開始時間)および安全性(主要安全性評価項目・副次的安全評価項目の有害事象)について比較を行った。

【結果】

A 群:16 例、E 群:45 例であった。A 群 vs E 群の止血時間(9.2 ± 2.2 分 vs 10.4 ± 3.8 分、n. s.)・歩行開始時間(5.3 ± 2.2 時間 vs 4.9 ± 1.1 時間、n. s.)であった。A 群において主要安全性評価項目である主要有害事象で同側下肢の虚血が認められた(6.2% vs 0%、n. s.)。副次的安全評価項目である有害事象の再出血(6.2% vs 0%、n. s.)および穿刺部位の血腫(6.2% vs 2.2%、n. s.)は、A 群による発現頻度が高い傾向が認められた。

【結語】

Angio-Seal® と Exo-Seal®の止血時間・歩行開始時間で有意な差は認められなかった。再出血および穿刺部位の血腫は両群で有意な差は認められなかった。Angio-Seal®は同側下肢の虚血が報告されているため、使用時には注意が必要である。